ISSN 2186-5647

5-9

東京の歴史的市街地における近隣・生活領域に関する実証的研究
－佃地区における物的環境と環境認知との相関と変化について－

日大生産工　○久崎　雅隆　　日大生産工（院）　塩田　直哉
日大生産工　　大内　宏友

1．研究の背景と目的

江戸東京における歴史的市街地において、時系列上の連続性を保つ地域文化を継承する都心市街地の計画設計手法の構築を行うことを目的とする。江戸時代に構成された下町の都市構造は、明治時代の急速な近代化、大正時代の関東大震災、昭和の第二次世界大戦、戦後の高度経済成長、さらに防災等の観点からの木造密集市街地の再開発などの影響によって、時系列上の連続性を持たないまま変化を繰り返してきた。市街地の成長もしくは衰退、時系列上における変容の連続性または不連続性という市街地構造の変化を読み取ることで、江戸東京の歴史的市街地における歴史文化を継承する集住体の計画的方法論の構築が可能になると考えられる[1）2）3）4）5）]。

これまでの東京の歴史的市街地の都心居住に関する研究として、東上野、築地、佃、月島地区それぞれの居住者を類型化し、生活領域の居住環境と生活の様態との関連性について考察を行った[5）6）]。

さらに、この４地区を 1996 年と 2012 年とで比較・考察し、空間構成の変容過程を明らかにした。
これに対し本稿では、佃地区の現地調査から得られたデータを用いて、さらにその同居住街区で構成された年代別類型の物的環境と認知領域について比較・考察する。

2．調査・分析方法

2－1．調査対象地域及び調査期間

本研究の対象敷地は、文献調査[＊1)]をもとに①関東大震災による被害地域、②関東大震災直後に土地区画整理を行った地域、③宅地開発指定を受けた地域、④戦災焼失区域を地図上にプロットし（図 1)、これらの被害から逃れた地区を東京における歴史的市街地と定義した。以下に調査対象地域と調査期間を示す。

■調査対象地域
・佃１丁目１～10 番地(図 2)
■調査期間
第１期：1996 年６月 18 日～７月２日
第２期：2012 年７月 28 日～８月 19 日

2－2　調査・分析方法

現地調査では 1/ 200 の白地図[＊2)]とアンケート記入用紙を使用し、現地にてアンケート(圏域図示法[＊3)]を用いた認知領域調査)及び物理的街区調査を行った。調査対象は中学生以上の地域住民とし、アンケート記入用紙は調査員が記入し、白地図は調査対象者に記入してもらった。木造住宅に３年以上居住している住民を分析対象者とした。対象者概要を表１に記す。

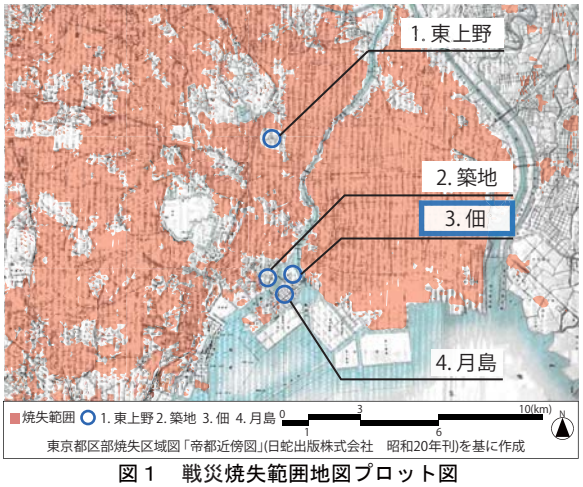

図１　戦災焼失範囲地図プロット図

表１　調査対象地域及び分析対象人数

調査対象地域		1996年　人数			2012年　人数		
地域名	街区	男性	女性	合計	男性	女性	合計
佃	佃1-1～10	35	26	61	26	35	61

図２　佃1丁目対象地区

＊1）　東京都区部焼失区域図帝都近傍図(日蛇出版株式会社　昭和 20 年刊)
＊2）　1996 年および 2012 年ゼンリン住宅地図
＊3)圏域図示法：この方法は対象地域をよく認識している被験者を対象とした場合に有効であり、自己の住居の周辺地区などの比較的限定された小地区の空間を対象とした研究に適している。認知の有無や広がりなどの量的な側面だけでなく、被験者の内部にある空間の切れ目を示してもらうことにより、間接的にその構造を探ろうとするものである。

Study on nighboror and living domain relationships of histrical downtown of Tokyo.
- For correlation with changes in the physical environment and the environment cognition in the Tsukiji district -

Kuzaki Masataka,Naoya SHIODA and Hirotomo OHUCHI

３.1996－2012 年における建物用途と路地の変化

1996 年と 2012 年のアンケート被験者対象地区内の路地構成を比較し、建物の用途変化との関係性について考察する(図２)。

対象地区およびその周辺では、主に戸建、集合住宅、飲食店、賃貸ビル、商業施設、空き家に用途が変化している。戸建住宅が減少し、空き家が増加している。集合住宅への用途変更が多く見られた。路地構成は主にＩ字型、Ｔ字型、Ｈ字型に分けられる。1996 年と 2012 年の間に消失した路地は、２番地および３番地のＴ字型、４番地のＨ字型、５番地のＴ字型であった。路地の消失はＴ字型とＨ字型に見られ、戸建住宅や駐車場の新築が原因であることがわかった。Ｉ字型の消失は見られなかった。

図１　1996年　佃1丁目2番地
「近隣付き合いの範囲」認知領域

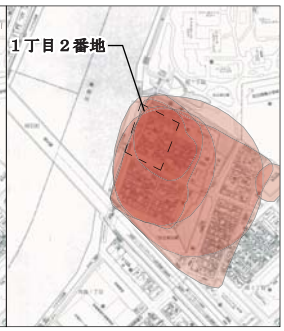

図２　2012年　佃1丁目2番地
「近隣付き合いの範囲」認知領域

図３　1996年　佃1丁目2番地
「日常生活の範囲」認知領域

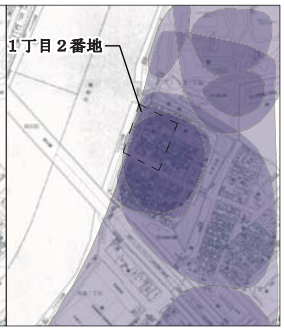

図４　2012年　佃1丁目2番地
「日常生活の範囲」認知領域

図７　1996年　佃1丁目5番地
「近隣付き合いの範囲」認知領域

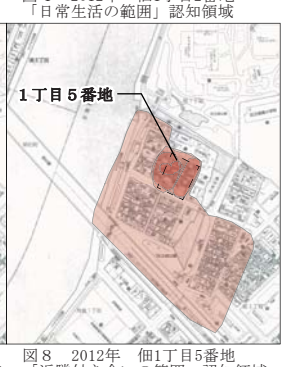

図８　2012年　佃1丁目5番地
「近隣付き合いの範囲」認知領域

図９　1996年　佃1丁目5番地
「日常生活の範囲」認知領域

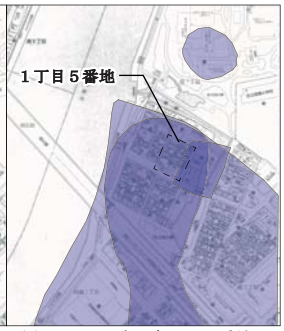

図１０　2012年　佃1丁目5番地
「日常生活の範囲」認知領域

表４　「日常生活の範囲」構成要素の項目順位表

佃地区	1996年		2012年	
	項目	サンプル	項目	サンプル
1丁目2番地	買い物	3	買い物	3
	仕事	/	仕事	/
	町内会	/	町内会	1
	散歩	1	散歩	1
	その他	/	その他	/
1丁目5番地	買い物	2	買い物	5
	仕事	/	仕事	1
	町内会	/	町内会	/
	散歩	/	散歩	2
	その他	2	その他	1

４．物理的環境の変化と居住者の認知領域の関係性

圏域図示法＊2)を用いた認知領域の調査により、アンケート被験者の「近隣付き合いの領域」と「日常生活の領域」、佃１丁目１～10 番地をまとめた認知領域図(図３～１０)、構成要素の項目表(表２)を作成し、路地の消失が見られた番地のうち事例として２番地および５番地を取り上げた。

・１丁目２番地(図３－図６)

2012 年の「近隣付き合いの範囲」と「日常生活の範囲」において 1996 年と比べ認知領域は大きく拡大している。「日常生活の範囲」の構成要素を 1996 年－2012 年の間で比べると、ほぼ変化が見られなかった。分散していた「日常生活の範囲」の認知領域の形状がまとまりを見せている。これは周辺の開発区域や佃川沿いの公園など特定の場所に住民の関心が向けられていると考える。

・１丁目５番地(図７－図１０)

2012 年の「近隣付き合いの範囲」と「日常生活の範囲」において 1996 年と比べ認知領域は大きく拡大している。「日常生活の範囲」の構成要素を 1996 年－2012 年の間で比べると、「買い物」、「散歩」のサンプルが増えていた。これは周辺の開発や、1996 年－2012 年の間で周辺に大きな公園が増えたことが要因であると考える。

５.まとめ

以上の分析考察により、佃地区における物理的な環境と居住者の認知の構造との相関について以下の結果が得られた。

①路地が消失する要因は主に建て替え・新築であり、Ｔ字型とＨ字型に見られた。Ｉ字型の路地は周辺環境の変容に左右されにくいと考える。

②2012 年の「近隣付き合いの範囲」と「日常生活の範囲」は 1996 年と比べ、事例とした２番地、５番地ともに認知領域は拡大している。二種類の認知領域が広がった要因には、周辺地域の開発、佃川沿いの公園や隅田川テラスが新しくできたことがひとつの要因であると考える。

【既発表論文】
1)井尻智・大内宏友：「都市における近隣・生活領域の画像処理を用いた集合単位の設定」日本建築学会技術報告集、第12号pp,215～218、2001年
2)大内宏友・井尻智・竹田真一郎・桜井雅顕・山田浩一郎:Corroborative Study on Alley Space in the Environment of Multiple Dwellings in the Urban Traditional Areas in Tokyo, STUDIES in ANCIENT STRUCTURES. Proceedings of the 2nd International Congress, 2001
3)大内節子・山田悟史・大内宏友:Study of the dwelling environment formation process in historical urban areas of Tokyo, ENHR(European Network for Housing Research) International Conference, Rotterdam, Kingdom of the Netherlands,2007
4)千葉勝仁・高野祐太・大内宏友:「都市の歴史的市街地の集住体における環境認知の形成に関する研究-月島街区における環境認知の構成とその変化について-その１」日本建築学会大会概要集、2012年
5)高野祐太・千葉勝仁・大内宏友:「都市の歴史的市街地の集住体における環境認知の形成に関する研究-月島街区における環境認知の構成とその変化について-その２」日本建築学会大会概要集、2012年
6)渡邊啓生・高野祐太・大内宏友：「都市の歴史的市街地の集住体における居住環境と環境認知の関係性その１(東上野・築地・佃・月島街区における環境認知の構造の変化について)」日本建築学会大会概要集、2013年
7)大平晃司・渡邉脩亮・大内宏友：「江戸・東京の歴史的市街地における近隣・生活領域に関する実証的研究(月島地区における環境認知の変化について)」n